

クラス番号	905	担当教員名	横井 優子
テーマ	子どもと家族の臨床～他者を理解する視点で～		

## ゼミナール概要

### 目的、内容、方法等：

子どもや家族が関わる臨床では、子どもが育っていく過程で、様々な支援が必要になります。子育ての際に、様々な理由から周囲の支援が必要な親や、発達障がいなどのため、通常の子育てでは関わるのが難しい子ども達もいます。児童虐待など、子育ての難しさから起こる問題もあります。乳幼児では、保育園・幼稚園・子育て支援センターなどにつながる育児支援の流れがあります。

小中学校では、不登校や学校で起こる不応の問題など、様々な支援の必要な問題があります。それらを素材として、対人援助について考えます。

実際に人と対面して援助する時には、相談者の意図を汲み取り、理解することが第一に求められます。しかし、そのことは実際にはとても難しいのです。相談者が語らないこと、語れないことも含めて理解しなければなりません。また、相談者が自分の気持ちを語らない理由やその背景をも含めて、理解しようとする態度が重要になります。

さらに、援助者側の問題にも気づく必要があります。援助者が良かれと思って考えた援助方法と、相談者の気持ちにずれが生じた場合、ついつい相談者に対して説得をしようと力が入ってしまうかもしれません。そんな時には、相談者と援助者の間に、微妙なずれが生じてくることとなります。

地域での連携など、複数の専門家や援助者が、協働して相談者に関わることもあります。そんな時にも、様々な視点から物事を見るのが大切になってきます。

### 授業計画：

1. 絵本などの題材を提供しますので、自分なりの見方や理解を整理して、小グループでまとめます。
2. 前期に課題を出しますので、作品をもとに、レポートを作成します。そして、レポートをもとに、それぞれが発表します。
3. 後期には童話や絵本、映画など、自分の好きな作品をまとめ、他のゼミ生に紹介してもらいます。自分が感動したことや、ものの見方を他の人に口頭で紹介し、レポートにまとめることで発表や文章にすることに慣れていきます。自分がそう思ったというだけでなく、客観的に説得できる内容であることが必要です。
4. ゼミ生同士の相互理解を図ることを目的とします。
5. 状況をみながら、課題を考えますが、今のところ、図書は「トマシーナ」ポール・ギャリコ、絵本では「大きな木」S.シルバシュタイン「自分だけの色」L.レオーニ、などを考えています。
6. フィールドワークで、実践の場の見学等を考えています。

### 担当教員からのメッセージ



基礎演習では、与えられた課題を発展させて、自分の興味関心の対象を絞っていくことが課題となります。そして、自分の考えを文章にまとめること、ディスカッションすること、発表することに慣れていきます。自分のとらえ方や考えを他者に理解してもらうように伝えることを実践していきます

他のゼミ生の意見に耳を傾け、自分の意見が話せる、そこからまた新しい視点が見つかる、そんな暖かいゼミにしたいと考えています